

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0191500115), 法人名 (有限会社 ハマダコーポレーション), 事業所名 (グループホーム おもひで・桜(1階ユニット)), 所在地 (北海道茅部郡森町字森川町223-21), 自己評価作成日 (令和2年2月1日), 評価結果市町村受理日 (令和2年8月19日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風インテリアに工夫し、昔懐かしい雰囲気を残し、家庭的な環境を壊さないようにしている。また、日頃から掃除を行い、清潔感のある環境を作っている。暖かい時期は外出の機会を持ち、桜の時期はどの部屋からも桜の花が見え楽しんで頂いている。外出以外も季節を感じて頂けるよう、季節ごとの行事や食事作りにも力を入れている。また、御家族様にも行事に参加して頂いたり、面会時に生活の様子等を話し、入居者様・御家族様・職員と深い繋がりが持てるようにしている。森町認知症の人と共に歩む会の研修や行事にも出来るだけ参加させて頂き、地域の方との交流の機会を作っている。職員は、研修の機会があれば積極的に参加したり、経験年数が長い職員からの指導等から知識や技術を学び、ケアの質の向上に努めている。また、地域包括ケア会議にも参加し、他の施設との情報交換やネットワーク作りもしている。毎年、消防署に依頼し、救急蘇生法の研修を行い、全職員が救急時に落ち着いて対応できるようにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0191500115-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年7月28日 (令和元年度分))

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR森駅から徒歩15分、国道5号から10分程度の閑静な住宅地にあり、近くには桜の名所の青葉公園があり、また生活雑貨のストアも徒歩圏内で、静かで落ち着いた環境下に立地している。開設は2009年で、洒落た二階建ての事業所に1階と2階に1ユニットが入り、計18人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優れている点は開設から10年が経過し、地域との交流が日常的に行われ、当地に必要な家として周囲から認識されている点を挙げたい。職員は地元出身者がほとんどで、森町内の利用者とは何らかの接点があり、「地元の人には地元で」を共通の思いとして強く介護に臨んでいる事を高く評価したい。またハードの面でも注目したい。建物の内部、玄関や廊下、茶の間等には昔懐かしい古家具、民芸調の筆筒類が多々置かれており、郷愁に満ちた構成となっている。また当事業所は上履きを使わない介護を実践しており、それに伴い廊下や居間、茶の間等の床は、完璧なほど掃除が行き届き、清潔感に満ちた状態が常時保たれている。まさに管理者や職員の介護に対する意識の高さを表しており、常に自己を振り返りながらの結果であり、今後も大いに期待したい「おもひで・桜」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff actions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人格を尊重し、そのらしさを支え、この地域で「おもいで」を作っていく理念を掲げ、毎日思いを一つにし、実践に繋げている	その人らしい人格の尊重を基本理念とし、一人ひとりの生活を大切に、地域の中で穏やかに楽しい生活の二点をケア理念として取り組んでおり、個人の目標も定めながら、実践に臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し、回覧板を一緒に回したりしている。町内ボランティアの来訪もあり、地域との交流を図っている。	開設後10年を経過しており、個人住宅の多い地区で、交流は日常的に行われ、ボランティアの受け入れや季節の花々の差し入れも頻繁で、地元との交流は維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に悩む方々へ、認知症介護のアドバイスをしたり、相談も随時受け付けている。依頼があった時は、講話もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望をお聞きし、サービスの向上を目的とした意見交換を行っている。会議での意見は職員間でも共有しサービスの向上・改善に努めている。議事録は玄関に置き、誰でも閲覧できるようにしている。	運営推進会議は行政や包括、地域代表、必要に応じて消防職員等々の参加で定期的に行われており、行事や研修、職員の動向等を報告して意見や検証をうけ、サービス向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センターに相談し、アドバイスをもらったり、情報を得る等、連携をとり協力体制を築いている。また、地域包括ケア会議にも参加している	行政の窓口とは、制度の改定や疑似解釈について説明を受けたり指導を得ながら関係性を維持しており、情報交換も含めて信頼性の高い連携が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやケアカンファレンスの際に、転倒等のリスクに対して介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を行い委員会が中心となり勉強会も予定している。	身体拘束廃止委員会を設置し指針を定め、3ヶ月毎に委員会を開催しており、直近の会議で職員に周知徹底している、職員は拘束や抑制の問題点を理解しており、拘束も抑制も無縁な介護を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となり、言葉遣いやケアの状況により指導したり、全員で討議している。また、入居者様の身体及び精神状態の細かい変化に気付けるよう日々観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、随時対応できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけて余裕のある時間で行い、サービス内容等説明し、その都度、疑問点等ないか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は職員から話し掛け、日頃の生活の様子等を話し、気軽に言って頂ける雰囲気作りをしている。また、信頼関係の構築に努め、意見や要望をお聞きし運営に反映させている。重要事項説明書には、受付窓口・責任者の電話番号、第3者機関の相談窓口も提示している。	お便りを年に数回発行し利用者の生活の様子を伝え、また面会時には気軽に声を掛け、なんでも話してもらえるように努めている。頂いた意見や苦情等は直ぐに検討し、サービスの質向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見や提案は統括部長や管理者がまとめて伝えている。	定期的な会議や申し送り時に提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また必要に応じて統括部長や管理者との面談も随時設定し、職員の意見やアイデア、工夫について取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員の努力・勤務状況を把握し、職場環境を整備しようと努力している。また、気分転換できるよう、連休や希望休を取ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に合わせた研修に参加してもらい、受講後は報告書を提出してもらい、他職員と共有し意識・技術の向上に努めている。また、国家資格受験の応援にも努め、働きながら介護福祉士を受験できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や勉強会等で意見交換や交流する機会があり、サービスの向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、出来るだけ来訪して頂き、居室等全体の雰囲気を見てもらっている。また、管理者が自宅や施設を事前に訪問し、御家族や御本人と話し合う機会を作り入居前に不安が解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら、連絡を取り合い、御本人と一緒に来訪して貰ったり、自宅訪問に立ち会って貰い、不安や要望等話し合う機会を設け、安心できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員は、御本人・御家族に事前に情報収集をし、他サービス事業者や医療機関からも情報収集を得て、よりよいサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の今出来ることを大切に、生活の中で活かしていけるよう一緒に家事をしたり、食事や外出等、共に過ごす家族のような存在になれるよう努めている。また、一方的な支援にならないよう相手の想いや立場を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時に入居者様の様子を伝え、御家族様からの要望もお聞きし、時には入居者様に安心して貰えるようお話して頂く等、職員と共に入居者様を支えて頂ける環境を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様以外の知人の面会もあり、馴染みの方との関係を継続できるよう支援している。入居時は、馴染みの家具等あれば持って来ていただいている。	家族等の来所時にはゆっくりと語られるように配慮している。利用者の希望を優先し、気に入った景色・地域や好きだった食べ物屋にも同行し、馴染みの思いが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相互関係に配慮し、性格や習慣等、細かく把握し良い関係作りができるよう支援している。トラブル時は早急に原因を把握し助言・仲介に入り、双方が不快な思いをしないよう関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し、入院となった方のお見舞いに行ったり、御家族様と今後のことを話し合ったり、相談受付等、関係を断ち切らずに保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕草や表情・行動等、様々な方向から思いを汲み取り、困難な方には、御家族様から希望や要望、意見をお聞きし、その方の立場になって検討し支援している。	日々の生活を支援していく中から、思いや希望を把握し、本人の願うような時が過ごせるように取り組み、また意思疎通が難しい場合も、顔の表情や仕草から、本人本意になれるように努めている。	本人は最後の時間をどこで過ごしたいのか、誰と迎えたいのか等々の利用者本人のエンディングに関して、定期的に具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、御本人・御家族に生活歴等を聞き、情報収集をし大きく生活が変化しないよう、個々の暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の人格を尊重し、出来る事、出来ない事を把握できるよう観察、記録に残し、情報の共有と必要な事を支援し、現状の能力を総合的に判断しケアしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況を申し送りし、日誌や記録に記入している。入居者様・御家族様の意見や要望をお聞きし、カンファレンスを開き、現状にあった計画を作成している。状況変化時は計画の見直しをしている。	日頃の生活や介護日誌からカンファレンスを実施し、家族意見や医療面を加味し介護計画を作成している。また病変等が生じた場合は、すぐに変更等を検討して現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録や日誌に日々の生活の様子も記入しケアプラン項目の記入もされているので、実践や見直しに活かし、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の希望、かかりつけ医への受診、買い物の送迎等、柔軟な対応をしている。様々なニーズに対し、職員間で話し合い、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で外出する際は、事前に連絡している。仏壇がある方は毎月住職が来てくださっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族が希望する、かかりつけ医がいる場合は継続受診が可能。医療連携している主治医の往診も行っている為、24時間診てもらえる体制も整えている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重しているが、状況に応じて協力医の往診や訪問看護も検討し、24時間オンコール体制で安心感のある医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の訪問看護師へ報告したり、月1回の訪問看護日に相談・報告したり、重度化にならないよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、職員も付き添い、情報提供し今後の方針等、医師や他職員と相談している。お見舞いに行った際等、今後の方向性を相談員と話し合う等、積極的に関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療連携している主治医とは、24時間体制で連絡・相談が出来る。終末期の際は、細かく指示をもらい、出来る事・出来ない事を明確にし御家族様に文書による説明・同意を得ている。また、職員間でも方針・情報を共有している。	契約時に書面にて看取りの指針を説明し、希望があれば最後まで支援する旨同意を得ている。重度化・看取りの指針では、利用者にとって適切な対応になるよう、チームとして支援に取り組んでいる。現状ではほぼ全員の利用者と家族が看取り介護を希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習を職員全員受講している。また、AED設置、緊急マニュアル作成しており、必要に応じて主治医からアドバイスを貰っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いで避難訓練を予定している。スプリンクラー設置している。	年に2回の避難訓練を実施しているが、当事業所が近所の人の避難場所の可能性も高く、大規模災害以外は事業所での対応も検討している。また冬季災害での事態に備えて、石油ストーブも用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、言葉遣いや態度に注意している。排泄は、職員間で暗号で報告し合いプライバシーに配慮している。	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、研修や会議でも礼を忘れないようにと話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態に合わせた選択肢を選び、入居者様の希望や意見を尊重し自己決定していただける環境と働きかけをし、待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話や表情・体調から思いを汲み取り支援している。希望に添えるよう買い物や外食等、様々なことに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望に添えるよう季節や気温、好みに配慮しながら、お洒落を楽しんでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を継続していけるよう一緒に調理をしたり、片付けを行えるようにしている。季節の食材を取り入れたり、行事に合わせた献立、誕生日には好物を取り入れている。	食事は職員が手作りで調理し提供している。食料や食材に関しては地域密着の意義に沿って、地元の店舗から購入している。行事や誕生会には好物等も取り入れて、楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記入し、不足時は好物を提供したり、補食やゼリーで補っている。また、咀嚼や嚥下機能の状態に合わせ摂取しやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後口腔ケアをしている。個々に合った歯科用品を使い、気分や体調に配慮したケアをしている。口腔内の異常や義歯の不具合は協力医に診て貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、個々に合った排泄パターンを把握し、トイレサイン等からもトイレ誘導のタイミングを計り、汚染を少なくし、トイレでの排泄を促している。	排泄はトイレで行うことを共通認識しており、時間や仕草・サインで誘導や促しを行ない、またオムツから布パンツへ、無理なく自立できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を記録し、水分摂取や乳製品、オリゴ糖等、マッサージ施行に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を希望された場合は同性職員で対応できるよう配慮している。体調に合わせた時間帯で入浴していただいている。	お風呂はお湯を毎日浴槽に満たし、いつでも入れられるように準備している。日々3人程度の入浴者であり、ゆっくりと語りながら、楽しいお風呂になるよう入浴を支援している。また同性介護を希望される場合にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や生活パターンに合わせて、季節・気温にも配慮している。眠れない方は、職員と過ごす等している。昼間は疲労や体調に合わせて休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬情報を個人ファイルに保管し、服用している薬の副作用や目的をいつでも確認出来る様になっている。内服の変更時は職員間で共有し身体状況の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、家事の手伝いが出来る環境を作り、季節に応じた行事を提供している。好物を差し入れて貰ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や通院等、個々に合わせた外出支援を、季節ごとの行事を楽しんで頂けるよう、日頃より外へ出かけられるようにしている。	季節のドライブ、桜や紅葉狩り等の他に、天候と相談して出かけるように努め、買い物や外食、散歩等を日常的に行い、閉じこもらない介護となるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来ない方は、金庫で預かっている。外出時に出来る方は、会計時に職員が付き添い支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代筆や電話の受け答え等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から外を眺めたり、天気の良い日はウッドデッキで日光浴をしたりしている。また、季節に応じて飾りつけをしている。	建物の外観はモダンな造りだが、内部は木材を基調としており、廊下や茶の間には古い箆笥等が置かれ、古民家的な暖かみのある共同空間となっている。特筆すべきは廊下や階段、玄関や居室、トイレ等々、建物の内部が完璧なほど清掃が行き届いており、特に廊下は完璧に磨き上げられ、清潔概念の徹底さが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を個々に合わせ、入居者様同士楽しく会話したり、一人で落ち着いて過ごしたりと思思いに過ごすことができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや布団、タンス、仏壇等の家具を持ってきていただいたり、写真を飾ったりと居心地よく安心できる居室になるよう配慮している。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気が感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には暖簾や表札を掛け分かり易くしている。共有箇所には手すり、トイレには札をかけている。台所では職員と一緒に安全に家事が出来る。		